

(ア) 健康・生活

ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>・生活習慣の基盤作り</li><li>・健康状態の維持・改善</li><li>・生活の質の向上</li><li>・自分の生活を考える力の育成</li></ul>
支援内容	<p><b>【生活習慣の基盤づくり】</b> 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活習慣を形成し、健康状態の維持・改善に必要な生活リズムを身に付けられるよう支援する (事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・送迎時間は基本的に固定し、送迎までには支度を済ませられるよう伝える</li><li>・就寝時間を最低 9 時間程取るように保護者も含めて意識付けを行う</li><li>・朝の会で歯磨きと洗顔の確認を行い、気温に応じた衣服の調整ができるよう支援する</li></ul> <p><b>【健康状態の維持・改善】</b> 健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出すことを支援する (事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・送迎時の体調を確認し、朝の会で自身の体調を自分で意識して発言できるよう支援し、利用中の体調不良にいち早く気付けるようにきめ細かな体調観察を行う</li><li>・休業日には朝の会でラジオ体操を行い、体力をつける習慣的運動を行う</li></ul> <p><b>【生活の質の向上】</b> 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔等の生活スキルの向上を支援する (事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自身の荷物や机上の整理整頓を意識するよう声掛け支援をする。また、視覚的にも絵を写真など使って支援していく</li><li>・調理活動は児童主体で行えるように環境設定をして継続的に食育の支援をしていく</li><li>・れんげ通貨を用いて、働くことの大切さ、就労意欲の向上、お金の大切さを学習できるように支援していく</li></ul> <p><b>【自分の生活を考える力の育成】</b> 障害の特性等を理解し、それらが及ぼす生活上の困難に対して理解を深め、自己の行動や感情を調整したり、他者に対して主体的に働きかけたりしてより生活しやすい環境にしていけるために支援する (事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1日の最後に振り返りを設定。自分の行動や感情を振り返るよう支援する</li><li>・感情を整理するために別室でクールダウンをして調整ができるよう支援する</li><li>・自分で何かをするアイデアを出しながら、自分の生活を考えることができるよう、こどもの意向を受け止めながら自分で組み立てできる行動を増やす支援をする</li></ul>

(イ) 運動・感覚

ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>・運動習慣を身につける</li><li>・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上、補助手段の活用、身体の移動能力の向上</li><li>・感覚の活用、感覚の特性への対応</li></ul>
支援内容	<p><b>【運動習慣を身につける】</b> 健康な身体を育て、維持するために日常的に運動をする習慣を身につける支援を行う (事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・休業日には、朝の会でラジオ体操を行う</li><li>・週2回程全体や個別での運動活動を行い、児童が楽しく運動できるように状況(気温、天候、安全の確保)に応じて、公園や体育館等で遊具や器具を使い、遊びなどを通じて支援を行う</li></ul> <p><b>【姿勢と運動・動作の向上、補助手段の活用】</b> 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、強化を図る (事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・児童の体格に合わせた椅子や机を設定する</li><li>・姿勢保持が困難な場合は姿勢保持装置などの様々な保持用具を活用する</li><li>・児童の特性に応じて姿勢保持強化の道具を用いて理学療法士と個別支援を行う</li></ul> <p><b>【身体の移動能力の向上】</b> 事業所外での移動や交通機関の利用など、社会的場面における移動能力向上のために支援を行う (事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学年齢によって、外出活動では自身で交通手段を調べて、移動の支援を行う</li></ul> <p><b>【感覚の活用】</b> 視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるように、遊具や器具を使って児童が意欲的に取り組めるように環境を設定して支援する (事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・縄跳びを使ったタイミングの感覚やバランスの感覚、ボールを使った身体の動かし方や強弱の力感覚、方向感覚の習得、イメージ通りに身体を動かすために姿勢保持が定着できるように支援する</li></ul> <p><b>【感覚の特性への対応】</b> 感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う</p>

	<p>(事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・眼鏡や補聴器等の補助機器等の活用をして、活動への参加や感覚の代行ができるように支援する</li> </ul>
--	---

(ウ) 認知・行動

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知の特性についての理解と対応</li> <li>・対象や外部環境の認知と行動の習得(感覚の活用や認知機能の発達、知覚から行動への認知過程の発達、認知や行動の手がかりとなる概念の形成)</li> <li>・行動障害への予防及び対応</li> </ul>
支援内容	<p><b>【認知の特性についての理解と対応】</b></p> <p>一人一人の認知の特性を理解し、それらを踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援する</p> <p>(事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集で聴覚が困難であれば視覚誘導で絵や文字などで見通しを立てて、今ある情報を整理して、必要な情報を処理できる習慣をつける支援をする</li> </ul> <p><b>【対象や外部環境の認知と行動の習得】</b></p> <p>〈感覚の活用や認知機能の発達〉</p> <p>視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、これらの感覚から情報が適切に取得され、認知機能の発達を促す支援をする</p> <p>(事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールや遊具等を使った粗大運動、パソコン学習等の微細運動を継続的に行う</li> </ul> <p>〈知覚から行動への認知過程の発達〉</p> <p>取得した情報を過去に取得した情報と照合し、環境や状況を把握・理解できるようにするとともに、これらの情報を的確な判断や行動につなげることができる支援する</p> <p>(事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の最後に振り返りを設定。自身で行った行動はどうだったかを振り返り、自己評価をする。その上で何故その評価になったかを説明できるよう支援する</li> <li>・学年齢に応じて、場面にあった言動を取るように声掛けをする <ul style="list-style-type: none"> <li>※年上には敬語、相手がどういう状況かを判断して話しかける等</li> </ul> </li> </ul> <p>〈認知や行動の手がかりとなる概念の形成〉</p> <p>物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、大小、数、重さ、空間、時間との概念の形成を図る支援をし、活用できるよう支援する</p> <p>(事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計を見て行動する習慣をつけるために1日の予定をスケジュール作成する</li> <li>・時計が認識しづらい児童はタイマーを用いて時間を意識する習慣をつける支援をする</li> <li>・1日の最後の振り返りで、日付・曜日・天気等を確認する</li> </ul> <p><b>【行動障害への予防及び対応】</b></p>

	<p>感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防及び場面や状況にあう行動への対応の支援を行う</p> <p>(事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの困難な場合は視覚的に絵や文字などを用いて状況に合う行動ができるよう支援する</li> <li>・感覚過敏や鈍麻等は眼鏡やイヤマフ等の補助機器を活用して、行動障害への支援をする</li> </ul>
--	---

(工) 言語・コミュニケーション

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの基礎的能力の向上</li> <li>・言語の受容と表出、形成と活用</li> <li>・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得</li> <li>・コミュニケーション手段の選択と活用、状況に応じたコミュニケーション</li> <li>・読み書き能力の向上</li> </ul>
支援内容	<p><b>【コミュニケーションの基礎的能力の向上】</b> 障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、文字、記号、絵、表情や身振り、各種の機器等を用いて意思のやり取りが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につける事ができるように支援する</p> <p><b>【言語の受容と表出】</b> 話し言葉や文字、記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語の受容し表出することができるよう支援する</p> <p>(事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の最後の振り返りでその日の出来事の振り返りと気持ちを伝えるように支援する</li> <li>・何かを要求する際には、何をしてほしいか、何がほしいか等を詳細に言語化して相手に伝えるように支援をする</li> </ul> <p><b>【言語の形成と活用】</b> 事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身につけることができるよう支援する</p> <p>(事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントや掃除等の話し合いを児童主体で行う場を設定。相手の話をきいたり、自分の考えを相手に伝えたりする環境を設定して支援する</li> </ul> <p><b>【人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得】</b> 人との相互作用を通して相手の行動や意図を理解・推測するといった共同注意の獲得や場面に応じた言動・対応など人との関わり方についての学び等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う</p>

	<p>(事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの第一歩として、送迎時や来所時、帰る際の挨拶の習慣化の徹底を支援する</li> </ul> <p><b>【コミュニケーション手段の選択の活用、状況に応じたコミュニケーション】</b></p> <p>指差し、身振り、サイン等を用いての意思伝達や、機器等のコミュニケーション手段を選択、活用し、意思伝達が円滑にできるよう支援する</p> <p>伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、その時の状況を的確に把握することが重要出ることから、場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションが展開できるよう支援する</p> <p>(事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援活動を通じてSSTによるコミュニケーションの確認を行い、自身のコミュニケーションを振り返る場を設定して能力向上の支援をする</li> </ul> <p><b>【読み書き能力の向上】</b></p> <p>障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う</p> <p>(事業所での支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの宿題がない場合は事業所で学力に応じた学習を提供し、学習を習慣化する</li> <li>・苦手意識が強い児童へはイラストや褒美等を用いて楽しめる環境を設定して意欲を高めるよう支援する</li> <li>・振り返り表の記入、自身が書いた文字の読み、おやつ等提示物を読むように促す等の日常の中に読み書き能力向上を促す支援をする</li> </ul>
--	--

(オ) 人間関係・社会性

<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所の形成と安定</li> <li>・情緒の安定</li> <li>・他者との関わり(人間関係)の形成</li> <li>・遊びを通じた社会性の促進</li> <li>・自己の理解と行動の調整</li> <li>・仲間づくりと集団への参加</li> </ul>
<p>支援内容</p>	<p><b>【居場所の形成と安定】</b></p> <p>こどもが基本的な信頼感を持つことができるように、環境に対する安心感・信頼感、人に対する信頼感、自分に対する信頼感を育む支援を行う</p> <p>(事業所の支援内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り等の個別面談で自尊心を高める、認める時間を設定して事業所を居場所として形成する</li> </ul>

### 【情緒の安定】

自身の感情が崩れたり、不安になった際に、大人が相談にのることで、安心感を得たり、自分の感情に折り合いをつけたりできるよう「安心の基地」の役割を果たせるよう支援する

(事業所の支援内容)

- ・自身の気持ちについて考える時間を設定してどのような状況で情緒の波があるかを理解できるよう支援する
- ・個別活動及び集団活動の中で、自身がしたことやできたことなどを1日の最後の振り返りで行い、客観的に考える習慣をつけるよう支援する

### 【他者との関わり(人間関係)の形成】

他者の気持ちや意図を理解し、他者からの働きかけを受け止め、それに応ずることや場に応じた行動ができるよう支援する

(事業所の支援内容)

- ・個別支援活動などでSSTによる他者との関係の確認や、男女の距離感・関わり方について考えるよう支援する
- ・れんげ通貨の評価の指針を用いて他者との関わり方を考えたり、自身の行動を振り返ったりする事ができるよう支援する

### 【遊びを通じた社会性の促進】

〈模倣行動の支援〉

遊びを通じて人の動きを模倣することにより、社会性の発達や対人関係の構築を支援する

(事業所の支援内容)

- ・高学年は低学年の見本となるような言動ができるよう支援する

〈感覚、運動遊びから象徴遊びへの支援〉

感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する

〈一人遊びから協同遊びへの支援〉

周囲にこどもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担をしたりルールを守って遊んだり共同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する

(事業所の支援内容)

- ・大人が介入する遊びより、こども同士への遊びに移行するように声掛けや遊び等をSSTを通じて、学んで実践できるよう支援する
- ・全体活動を行う場合はこども主体で話し合いをし、こどもの年齢や特性に応じて役割を与えてこども主体で活動できるよう支援する
- ・集団活動では小集団(4人前後)のグループを作り、協力して活動が行えるよう支援する

**【自己の理解と行動の調節】**

自分の行動の特徴を理解し、自己を肯定的に捉える機会を通じて、気持ちや情動を調整し、状況に応じた行動ができるよう支援する

(事業所の支援内容)

・1日の最後に振り返りを設定。1日を通してできたことや頑張ったことを考えて自分自身を称賛できるよう支援する

・周囲の状況や場所、場面に応じた言動ができるよう支援する

また事前にこの場面ではどのような行動を取るのかを考えるように声掛けし、自己にて行動調整ができるよう支援する

**【仲間づくりと集団への参加】**

集団に参加するための手順やルールを理解し、こどもの希望に応じて、遊びや集団活動に参加できるよう支援するとともに、共に活動することで相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する

(事業所の支援内容)

・集団活動はこどもに希望を聞いて、楽しく活動するための準備やルールをこどもが主体で考える場を設定して、集団活動への参加意欲を高める要支援する